

2018年度 第2四半期 決算説明資料

2018年11月27日

■ トピックス

■ 2018年度 第2四半期決算概況

■ 2018年度 通期業績予想

■ 米国工場の状況

■ 1921 三カ年計画に向けて

受注拡大に対応した工場の増築

合肥アーレスティ



新鑄造工場外観

【新鑄造工場】
2018年3月竣工
面積：5,103m²

【新加工工場】
2018年9月竣工
面積：12,856m²

【事務所棟】
2018年10月竣工
面積：3,509m²

アーレスティ山形



増改築部分赤枠表示

【第1加工棟】
2019年1月竣工予定
面積：1,250m²

【溶解棟】
2019年9月竣工予定
面積：650m²

アーレスティプリテック（豊橋工場）



【第4加工工場】
2019年9月竣工予定
面積：4,575m²

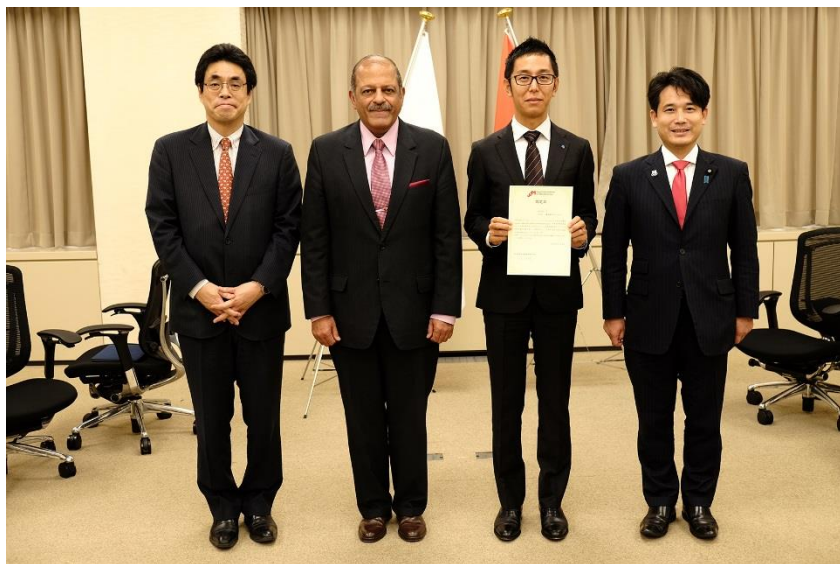
インドで日本式ものづくり学校に認定

- 経済産業省より第6号の日本式ものづくり学校として認定

2018年7月、アーレスティンディアに日本式ものづくり学校「アーレスティJIM」を開校。

第一期生として43名が入校。

スズキ、トヨタ自動車、ダイキン工業、ヤマハ
発動機、日立建機に続く第6号の認定。



第一期アーレスティJIM

【日本式ものづくり学校（JIM: Japan-India Institute for Manufacturing）】

インドの製造業の発展に向けた人材育成を目的に、経済産業省とインド技能開発・起業省（MSDE）によって2016年11月に合意された「ものづくり技能移転推進プログラム」の一環

- トピックス
- 2018年度 第2四半期決算概況
- 2018年度 通期業績予想
- 米国工場の状況
- 1921 三カ年計画に向けて

2018年度 第2四半期決算のポイント

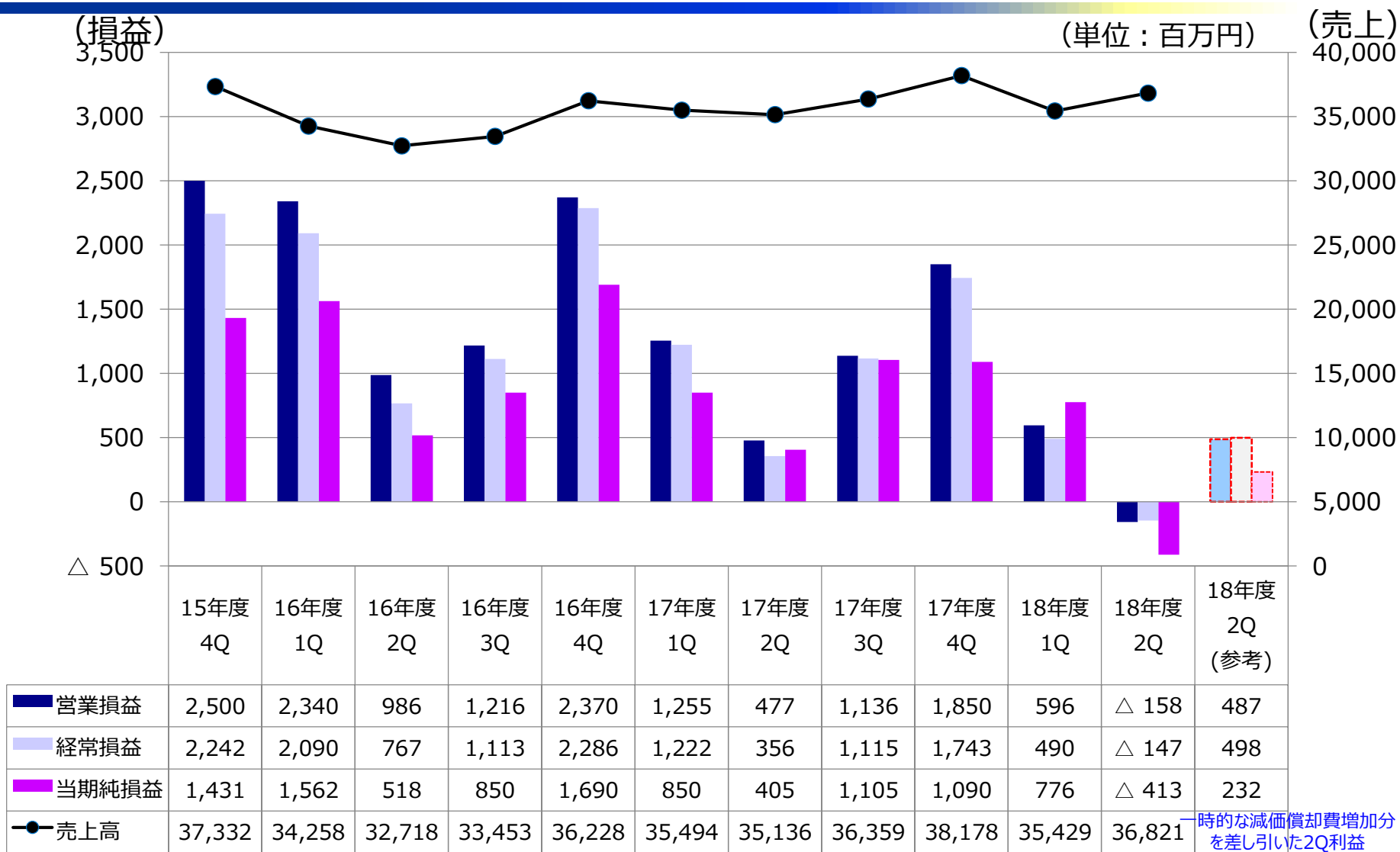
(単位：百万円)

	2017年度 第2四半期		2018年度 第2四半期		増減	
売上高	70,631	100.0%	72,250	100.0%	1,619	2.3%
営業利益	1,732	2.5%	438	0.6%	△1,293	△74.7%
経常利益	1,578	2.2%	343	0.5%	△1,234	△78.2%
当期純利益	1,255	1.8%	363	0.5%	△892	△71.1%
EPS (円)	48.56		14.02			

《全体感》

- 売上：アジアを中心とした受注量の増加等により増収
- 営業利益：燃料価格の上昇、米国の収益改善の遅れ、減価償却費の増加等により減益
- 経常利益：営業利益の減少により減益
- 当期純利益：経常利益の減少により減益も、有価証券売却益等により減益幅圧縮
- EPS：当期純利益の減少により、34.54円/株減少

連結決算概要（四半期推移）



ダイカスト事業

(単位：百万円)

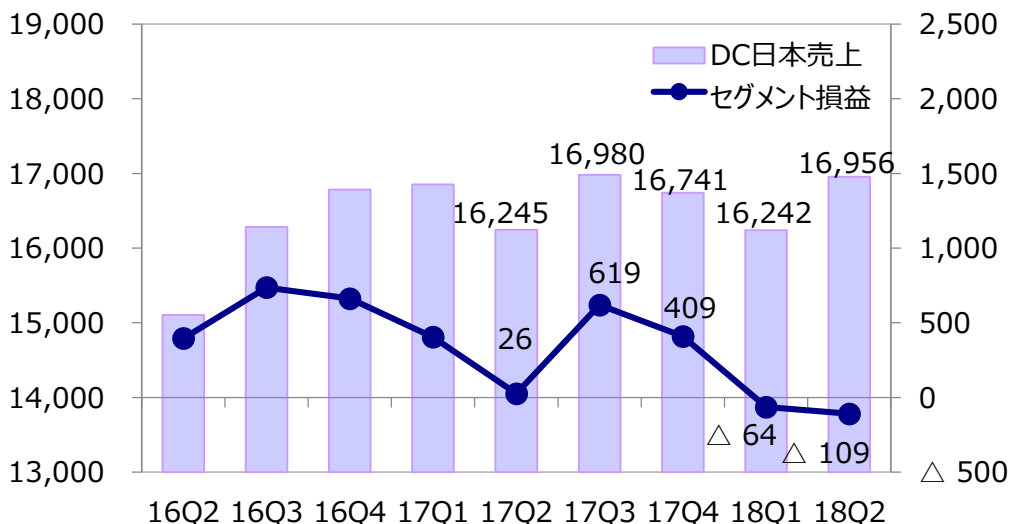
		2017年年度 第2四半期		2018年度 第2四半期		増減	
日本	売上高	33,097	100.0%	33,198	100.0%	101	0.3%
	セグメント損益	430	1.3%	△173	△0.5%	△603	－
北米	売上高	20,470	100.0%	20,514	100.0%	44	0.2%
	セグメント損益	214	1.0%	△198	△1.0%	△412	－
アジア	売上高	13,920	100.0%	15,143	100.0%	1,223	8.8%
	セグメント損益	828	5.9%	748	4.9%	△80	△9.6%

- ✓ ダイカストセグメントの海外売上比率
2017年度2Q：50.9% ⇒ 2018年度2Q：51.8%

※ セグメント別の増減要因については、次ページ以降で説明

ダイカスト日本

ダイカスト日本売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



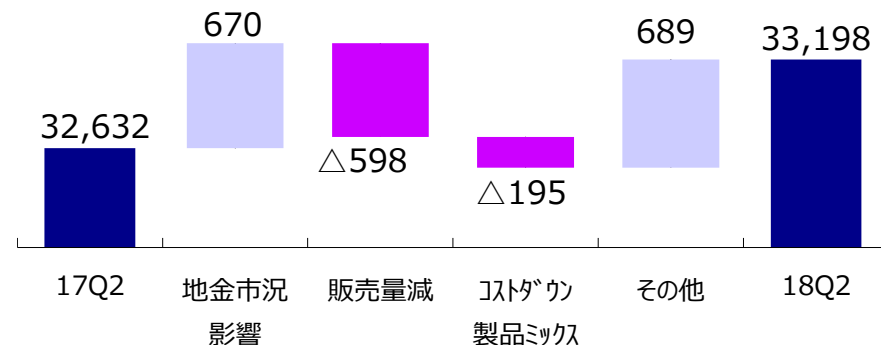
売上：1.0億円増（前期比0.3%増）

- 販売量は主要顧客の北米向け製品の一部が減少
- 売上高はアルミ地金市況の上昇等により増加

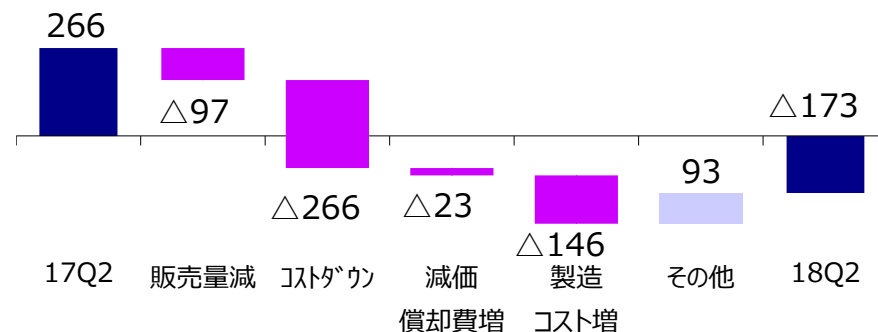
セグメント損益：6.0億円減（前期比 - ）

- 販売量の減少、コストダウンの影響により減益
- 燃料費等の増加も収益を圧迫

※売上高増減要因（単位：百万円）



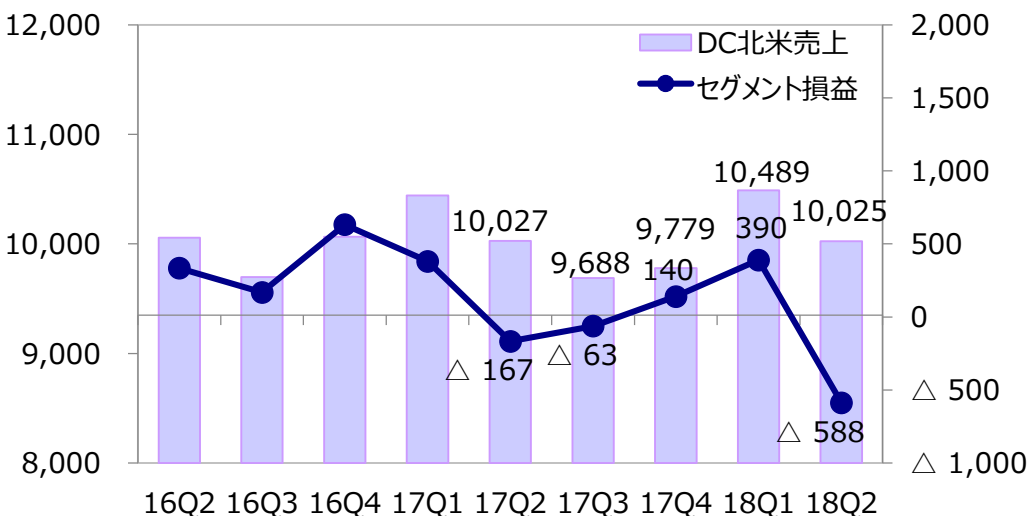
※セグメント損益増減要因（単位：百万円）



※17Q2の売上高・セグメント損益増減は決算期変更の影響額を除く

ダイカスト北米

ダイカスト北米売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



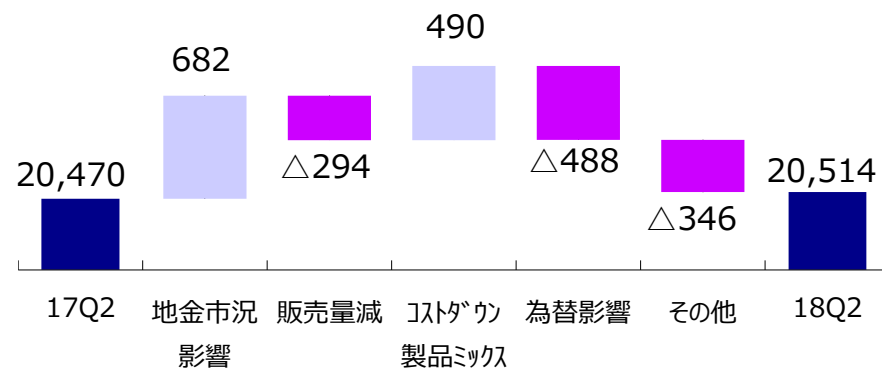
売上：0.4億円増（前期比0.2%増）

- 米国は一部製品生産終了の影響等により受注減
- メキシコは新規部品の量産本格化により受注量増加

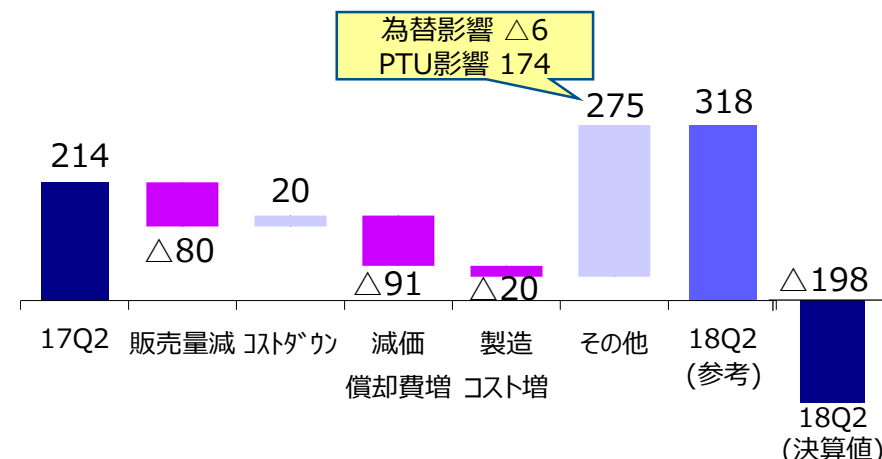
セグメント損益：4.1億円減（前期比 - ）

- 米国は売上減となるなかで生産性改善途上
- 一時的な減価償却費の増加等により減益

売上高増減要因（単位：百万円）



セグメント損益増減要因（単位：百万円）



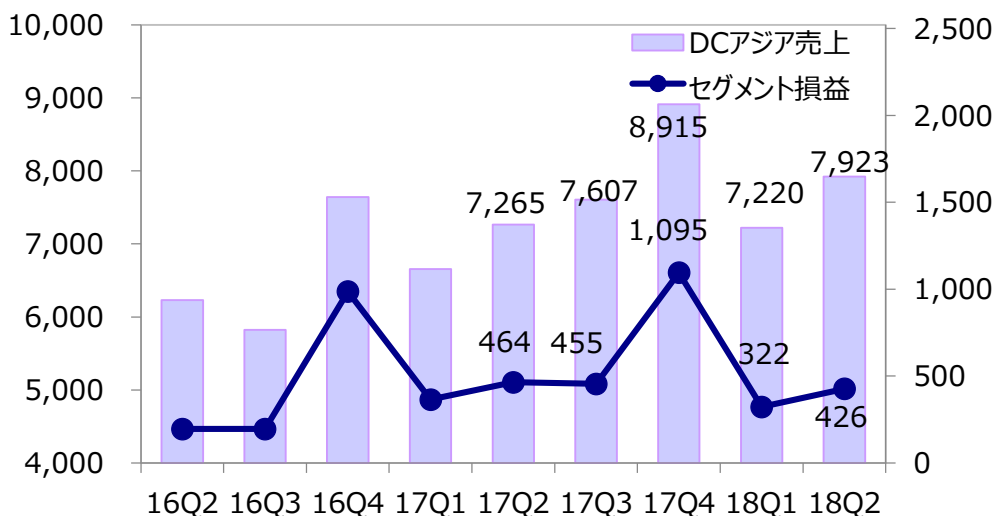
※参考は一時的な減価償却費の増加分を除いたセグメント損益

決算期：アメリカ3月期、メキシコ12月期

レート（17Q2⇒18Q2）アメリカ 111.42⇒110.07 メキシコ 112.75⇒109.17

ダイカストアジア

ダイカストアジア売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



売上：12.2億円増（前期比8.8%増）

- 中国は主要顧客のSUV等の売上好調により増収
- インドも自動車市場の拡大により受注増加

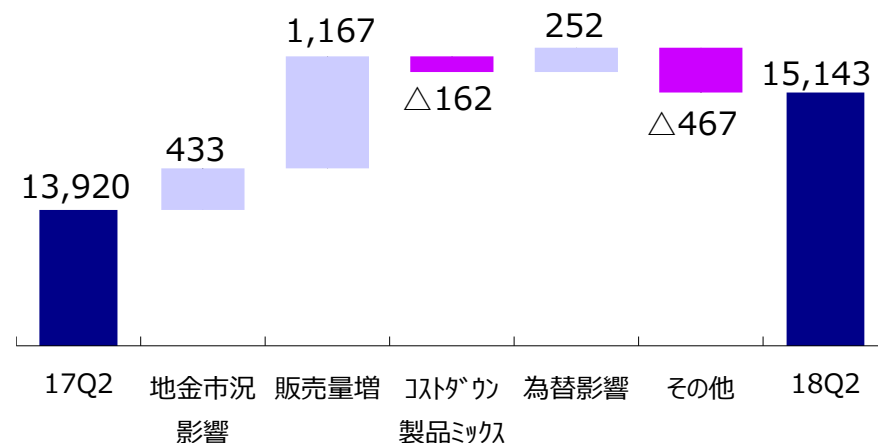
セグメント損益：0.8億円減（前期比9.6%減）

- 中国のコストダウン影響及び一時的な減価償却費の増加等により減益

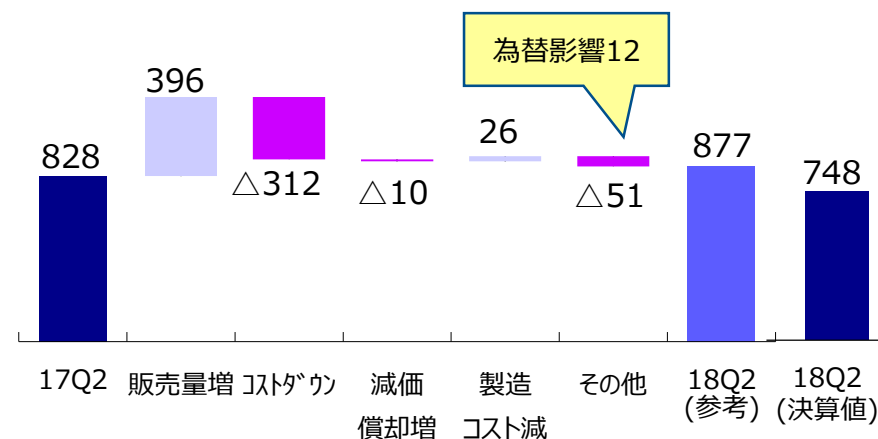
決算期：中国12月期、インド3月期

レート（17Q2⇒18Q2） 人民元 16.42⇒17.05 インドルピー 1.73⇒1.61

売上高増減要因（単位：百万円）



セグメント損益増減要因（単位：百万円）



※参考は一時的な減価償却費の増加分を除いたセグメント損益

アルミニウム事業および完成品事業

(単位：百万円)

		2017年度 第2四半期		2018年度 第2四半期		増減	
アルミニウム 事業	売上高	2,182	100.0%	2,290	100.0%	108	4.9%
	セグメント損益	115	5.3%	43	1.9%	△72	△62.4%
完成品事業	売上高	961	100.0%	1,104	100.0%	143	14.9%
	セグメント損益	143	14.9%	70	6.3%	△73	△51.1%

アルミニウム事業

- 売上：アルミ地金市況変動の影響を受け増収（前期比4.9%増）
- セグメント損益：原材料の価格上昇等により減益（前期比62.4%減）

完成品事業

- 売上：クリーンルーム物件や通信会社のデータセンター向け物件等の受注が増加（前期比14.9%増）
- セグメント損益：受注競争等により前期比減（前期比51.1%減）

連結キャッシュ・フロー

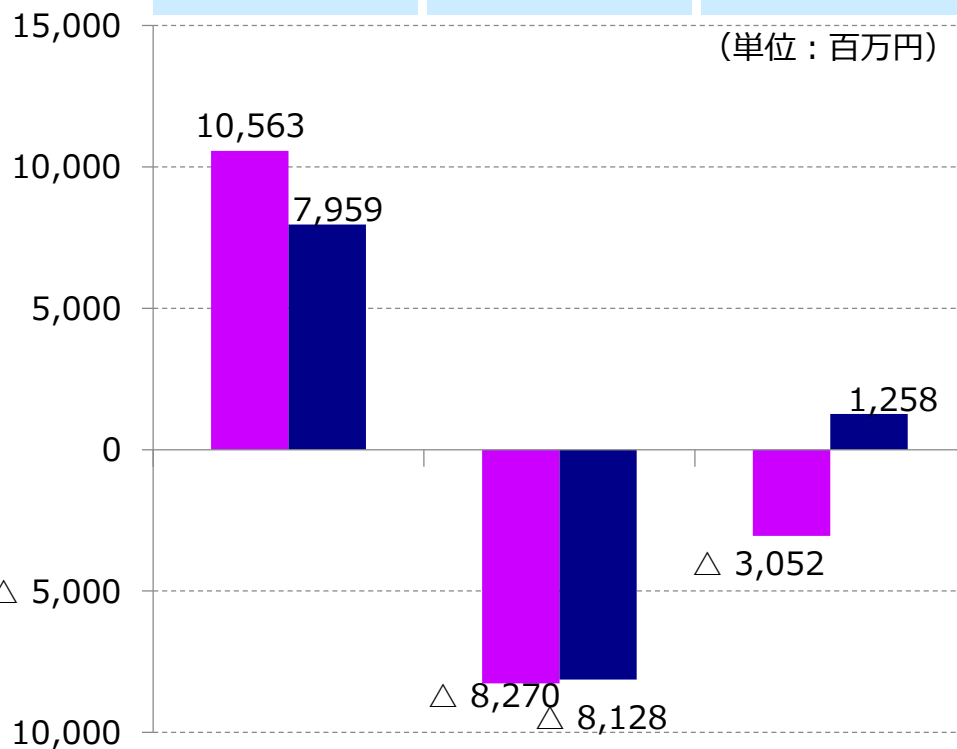
■ 2017年度2Q
■ 2018年度2Q

営業活動による
キャッシュフロー

投資活動による
キャッシュフロー

財務活動による
キャッシュフロー

(単位：百万円)



18年度2Qキャッシュフロー増減要因

➤ 営業CF

税金等調整前純利益	5億
減価償却費	84億
売上債権の減少（+）	16億
仕入債務の減少（-）	6億

➤ 投資CF

北米・アジアの設備投資が増加

➤ 財務CF

長短借入金の増加
(18/3末 315億 → 18/9末 331億)

- トピックス
- 2018年度 第2四半期決算概況
- 2018年度 通期業績予想
- 米国工場の状況
- 1921 三カ年計画に向けて

2018年度 業績予想

(単位：百万円)

	2017年度 実績		2018年度 期初計画(5/11)		2018年度 修正計画(10/19)		対期初計画増減	
売上高	145,167	100%	152,000	100%	149,300	100%	△2,700	△1.8%
営業利益	4,718	3.3%	5,800	3.8%	3,100	2.1%	△2,700	△46.6%
経常利益	4,436	3.1%	5,300	3.5%	3,150	2.1%	△2,150	△40.6%
当期純利益	3,450	2.4%	3,600	2.4%	2,300	1.5%	△1,300	△36.1%
EPS	133.40		139.17		88.80		—	
配当金（円）	26.00		26.00		22.00			

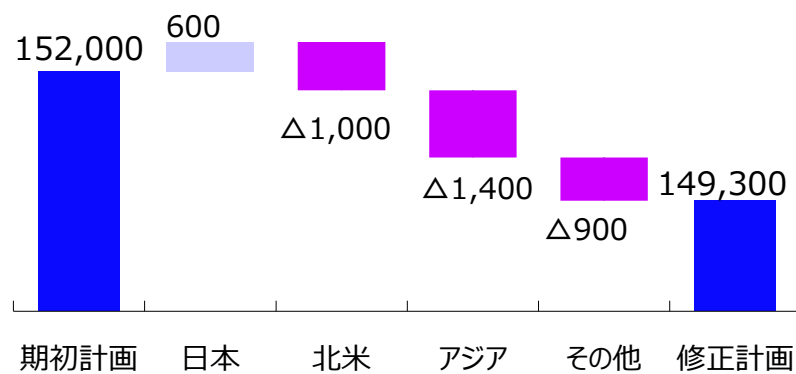
期初計画の前提レート（5/11）： USD 110円 人民元 16.0円 ルピー 1.75円
 修正計画の前提レート（10/19）： USD 107円 人民元 16.0円 ルピー 1.60円

2018年度ダイカスト事業 業績予想

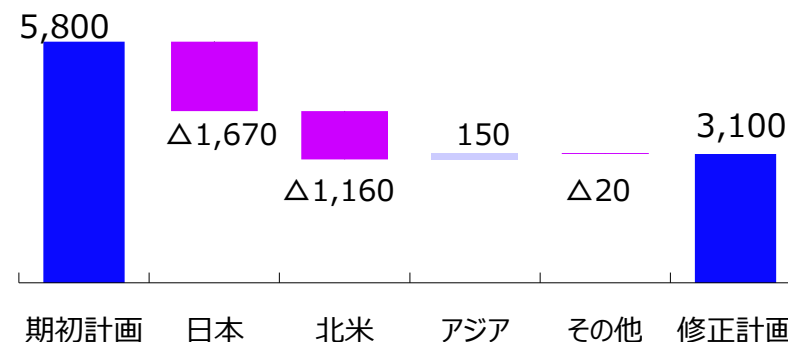
(単位：百万円)

		2018年度 上期		2018年度 下期		2018年度 通期	
		上期実績	期初計画対比	修正計画	期初計画対比	修正計画	期初計画対比
日本	売上高	33,198	98	37,200	500	70,400	600
	セグメント損益	△173	△713	650	△960	480	△1,670
北米	売上高	20,514	△736	19,490	△260	40,000	△1,000
	セグメント損益	△198	△1,068	510	△90	310	△1,160
アジア	売上高	15,143	△457	16,460	△940	31,600	△1,400
	セグメント損益	748	△2	1,300	150	2,050	150

売上高 対期初計画増減 (単位：百万円)

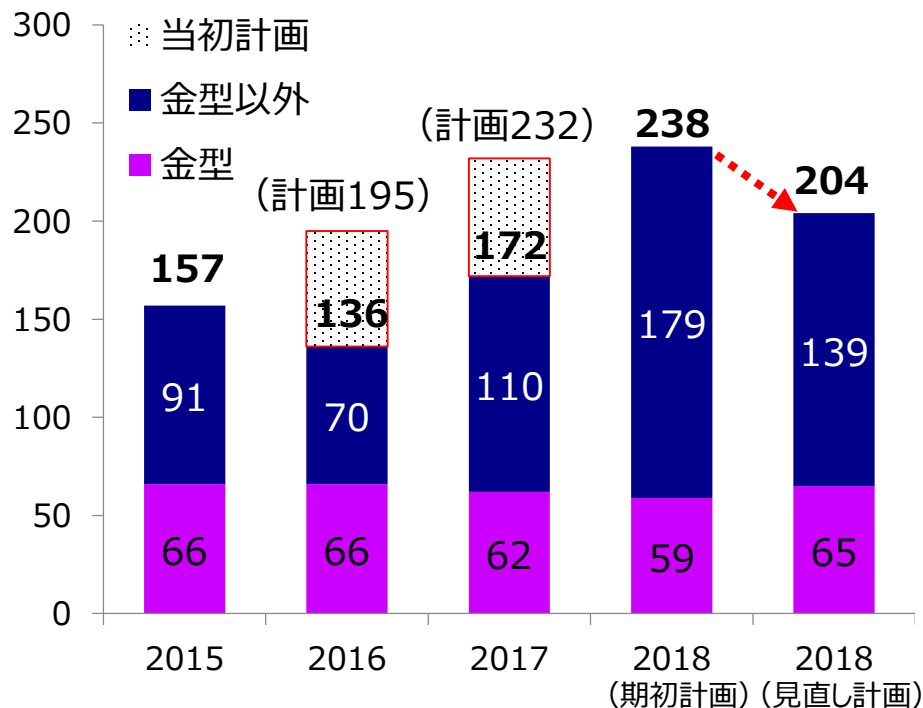


セグメント損益 対期初計画増減 (単位：百万円)

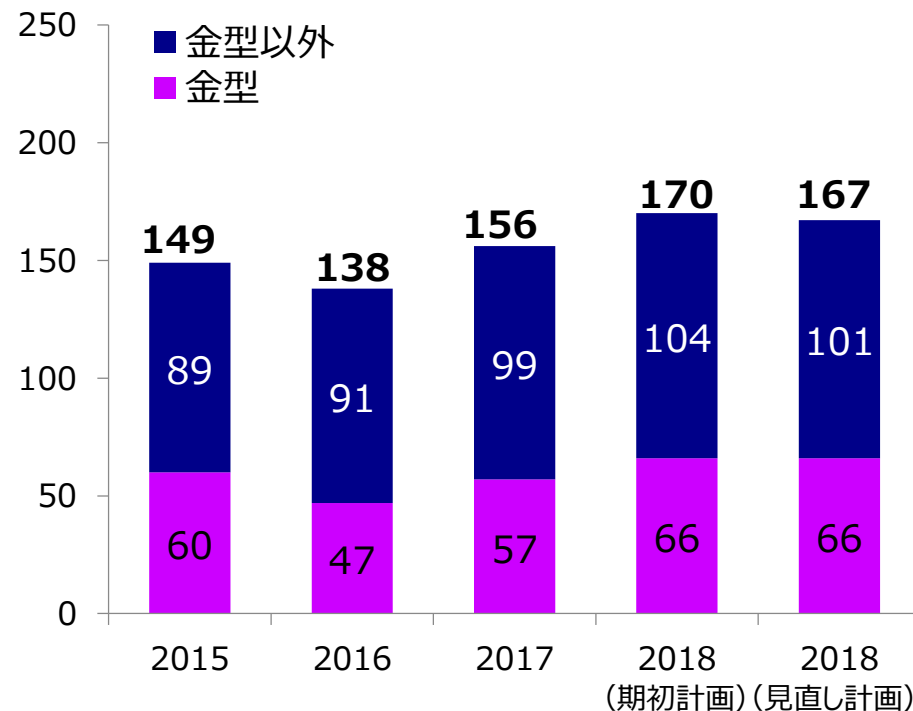


設備投資・減価償却の動向

設備投資額の推移（単位：億円）



減価償却費の推移（単位：億円）



2018年度の設備投資計画見直し実施

- 内容：投資時期の延期等により、主に北米及び中国の設備投資計画を一部見直し
- 設備投資金額：合計204億円（一般設備投資 139億円、金型投資 65億円）

※2018年度の減価償却費予測は一時的な減価償却費の増加分を除いています

- トピックス
- 2018年度 第2四半期決算概況
- 2018年度 通期業績予想
- 米国工場の状況
- 1921 三カ年計画に向けて

米国工場の生産性改善状況

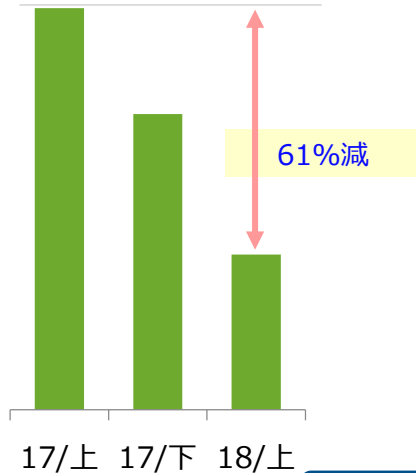
施策

- ・全作業員への標準作業教育が完了
- ・加工ラインごとの作業標準書を作成、業務内容の作業観察、評価を実施
- ・現場ボードを活用した不具合情報の共有によりクレーム件数削減
- ・プロジェクト対象製品の多くが生産性改善（一部製品は33%改善）
- ・アーレスティ経由の採用に加え、一部人材派遣経由の採用を拡大
- ・監督者のリーダーシップ教育、新人入社時オリエンテーションの見直し

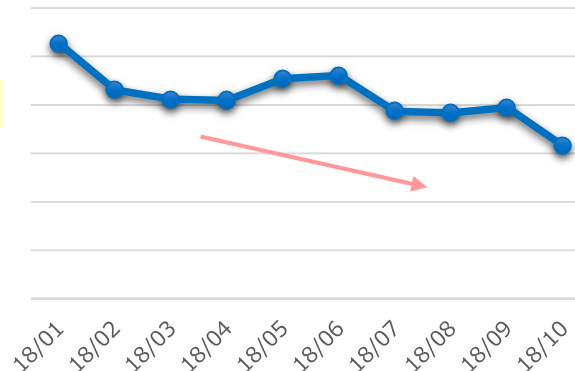
課題

- ・歴史的な低失業率により人的資源の確保と定着に苦戦

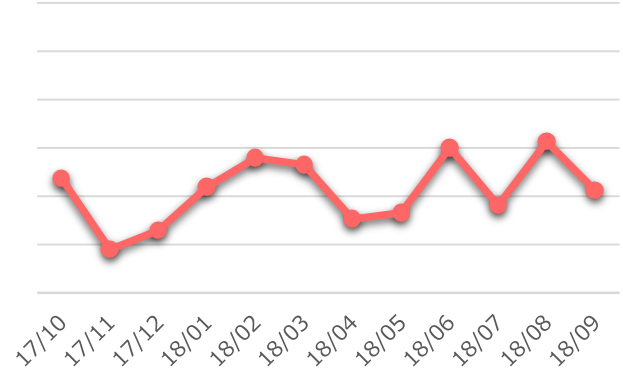
クレーム件数は大幅に削減



米国の欠勤率推移



米国の離職率推移

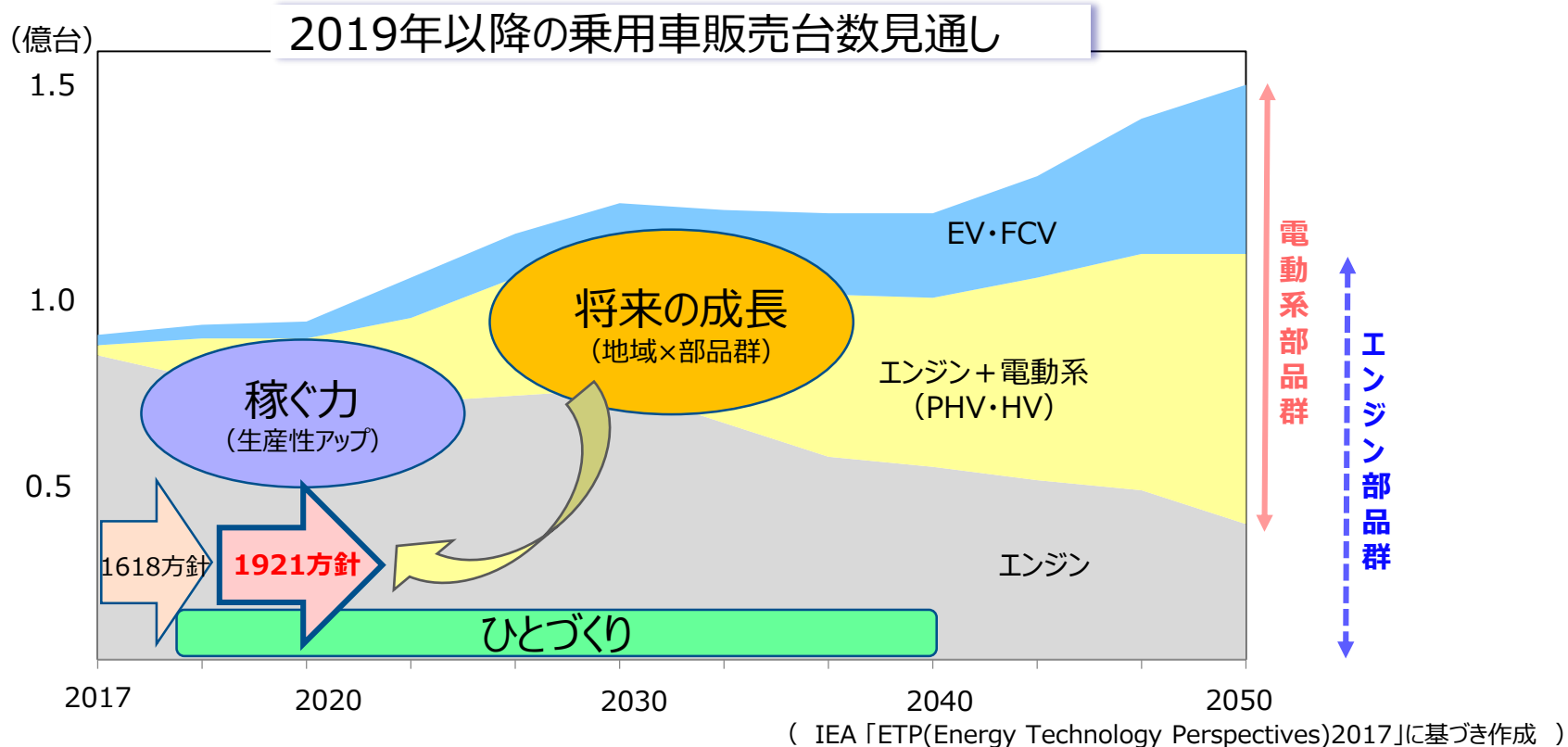


米国の改善を引き続き実施

- トピックス
- 2018年度 第2四半期決算概況
- 2018年度 通期業績予想
- 米国工場の状況
- 1921 三ヵ年計画に向けて

1921 三カ年計画に向けて

- 生産性向上、品質向上による稼ぐ力のアップ
- 将来の自動車市場（地域×部品群）を見た成長戦略
- ものづくりを支えるひとづくり





Casting Our Eyes on the Future

視線はまっすぐ未来へ

【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

株式会社アーレスティ 経営企画部 経営企画課 TEL 03-6369-8664

E-mail: ahresty_MP0_IR@ahresty.com

URL: <https://www.ahresty.co.jp>

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。